



日本共産党浦和区後援会ニュース
2017年4月号・No.70
浦和区北浦和3-14-16
TEL/FAX 048-833-4515
***** (部内資料) *****

あなたにとって
さいたま市長選
の争点は何?
さいたま市議会議員
とりうみ敏行

市民のための市政かどうか問われる現市長の2期8年

5月7日告示、同21日投開票でさいたま市長選挙が行われます。すでに、「みんなのさいたま市をつくる会」の前島英男氏をはじめ、現職市長など3人が立候補を表明しています。マスコミなどは、選挙の争点についてあれこれと論評していますが、さて、「あなたにとっての争点」は何でしょうか。

(大宮駅新都心、浦和駅、武蔵浦和駅、美園、岩槻、宮原)などを中心に、これまですでに5000億円の税金を投入してきましたが、H29年度予算でも大型開発に157億円計上し、これからも浦和駅西口南高砂地域、大宮駅東口大門2丁目再開発、大宮駅西口第5地区(ホテル・会議場)など、これまでの駅前再開発をさらに広範囲に広げようとしています。大宮駅東口の再開発はまだ始まったばかりです。

際マラソン3億円など合計で14億円もの税金をつぎ込みました。市民の税金が外国のイベント会社に流出してしまっています。こうした無駄遣いの一方で、今年も4月の認可保育園に7,647人が申し込みましたが、何と2,185人が「不承諾」となって、昨年より67人増加しました。国保税、介護保険料、障がい者・難病者の医療切り捨てなど福祉予算の削減はH29年度予算に換算すれば約18億円にのぼります。

また、H28年度だけでも3大ビッグイベントと言われるクリテリウム(自転車競技に3億円、トリエンナーレ8億円、国

以下のような市民のくらしの現状を考えれば、こんな無駄遣いの多い市政は今後の選挙の大きな争点ではないでしょうか。

さいたま市民のくらしの現状(さいたま市議会決算資料より)

Table with 3 columns: Category, H27年度, H23年度. Rows include average income, taxes, and income for those aged 65 and over.



怒喝の窓 行列のできた? 証人喚問 漫画 (領家 桑原崇寿)

* 耳より情報 *

- ◆浦和区後援会総会
4月16日(日) 14:00~
コラボ21
◆前島ひでおさんを励ます集い
4月23日(日) 18:30開会
埼玉会館大ホール
○前島先生の特別授業
○激励のことば
○みんなで歌おう!
テーマソング「そんな町を」
◆さいたま市長選
5月7日(日) 告示
5月21日(日) 投票
◆オール埼玉1万5千人集会
6月4日(日) 北浦和公園

うらわな宿文芸
うらわな宿文芸
川柳
見えないと言われりや見たく
なるチカラ
カローシに次いでソナタク国際語
証言で蟻が象に立ち向かい
(前地一 さぶ老)

俳句
痛いとこつかれていらだつ安倍総理
ぬけぬけとウソをついた稲田さん
答弁を共謀している金田さん
(岸町 だん吉)



《日々想》

「母 小林多喜二
の母の物語」を見た。
拷問により二九歳で
生涯を終えた若きプロレタリア作家の母を描いた作品。寺島のぶが多喜二の母セキの半生を演じる。上映の前に監督の挨拶があった。治安維持法下に反戦を貫いた多喜二と、その息子を信じた母セキの生き方を今に伝える意義を強調したものであった。教育勅語の精神を取り戻すべしなどと国会で公言する大臣もいる。首相をはじめ与党やその補完勢力である維新なども、日本を戦争のできる国に引き戻そうとしている。加えて、共謀罪で相互監視体制を作り上げようとしている。多喜二と母の悲しみ、苦しみを再現させてはならない。(美)

春のつどい 浦和区後援会 盛大に行われる!!

後援会恒例の「春の集い」は、新年度のスタートにふさわしく4月1日(土)14時からカルタスホールで盛大に行われました。桜の開花から1週間、花見のシーズンとあって出足が心配でしたが、会場いっぱい140名以上の方が参加し、熱気にあふれた集いとなりました。



市長候補の前島ひでおさん

とりうみ敏行市議会議員より「今年の春の集いは、5月にさいたま市長選、秋には衆院選もありうるということで、決起集会のようになってしまいましたが、ご支援の程宜しくお願いします」との開会の挨拶がありました。



とりうみ市議

次いで、今津軽三味線の若きホープとして全国的に脚光を浴びている北村姉妹の演奏会が行われました。「津軽じょんがら節」「ソーラン節」「津軽アイヤ節」などが津軽三味線の超絶

技巧ともいえる鮮やかなばちさばきで披露されました。

そして、さいたま市長候補の前島ひでおさんが市長選での抱負や政策を語りました。

「無駄なビッグイベントよりも、市民ファースト」をスローガンに、37年間の教師、その後の市民運動や労働運動の経験も交えて、教育、福祉、文化政策などをたっぴりと紹介しました。市長選に何故立候補したのかという理由を問われ「安倍自民党政治への怒り、特に安倍、麻生のヘラヘラ笑いながら答弁する態度に我慢がならない」と話したことが印象に残りました。

最後にテーマソング「そんな町を」を前島さんのギターで全員で歌いました。

そのあと、現衆院議員梅村さえ子さいたま15区候補の国会報告、とば恵さいたま1区候補の決意表明が行われました。



情勢を語る梅村衆議院議員



熱演の北村姉妹

市民と野党の共闘で新しい政治を

講演 山口二郎さん(政治学者・法政大学教授)

3月11日に山口二郎さん(政治学者・法政大学教授)をむかえて「講演と交流~埼玉一区のつどい」が開催されました。「森友学園」問題にかかわった世論調査(日経新聞)では安倍内閣支持36%、不支持64%との結果も出され、安倍内閣支持率が急降下しています。つどいには220名が参加し、「市民の力で野党の共闘を前進させよう」と会場が熱気につつまれました。

最初に主催者側から「安保法制廃止・立憲主義の

回復をめざす連絡会は埼玉県内の15選挙区のうち12選挙区で結成されており、残り3区も4月中旬に結成予定であることが報告されました。

続いて、山口二郎教授の講演「政治危機と私たちの選択」がおこなわれました。山口教授は、「アベ化する世界とイヤな時代」として、アベ化とは、自己愛の強い幼稚的リーダーの跳躍跋扈、批判に対する耐性の消滅、ウソがばれても恥ずかしくない体質で、イヤな時代の本質とは国民に真実を伝えない。メディアの抑圧と情報の隠蔽、国民に対する画一化の押しつけ (3面につづく)

(2面より) などに特徴があるとしました。また、世界のアベ化現象として、建前を公然と否定するトランプ大統領が誕生したアメリカ大統領選挙と生活苦がすすむアメリカ社会の現状を指摘しました。

「日本の危機的現状」では『安倍総理は藤原道長か!』と例え、権力の暴走と無責任、批判的言論の圧殺、国会の機能の形骸化、南スーダンでの「戦闘」を「衝突」と言う詭弁とごまかしの重層化が蔓延しているとしました。そして、人間の生命と尊厳を侮辱する風潮、貧困の拡大など社会、経済、生活での危機が進行していると指摘。自民党の勝利が続いている中、「政治転換の突破口」はどこにあるのか。山口氏は野党と市民社会との提携の重要性を強調。昨年の参院選挙で野党が結集して、1人区で11県が勝利したこと、新潟県知事選で明らかになった民意をあげました。また、特に安倍内閣の冷酷・非情な政策が集中した県での勝利の教訓にも触れ、原発、震災など争点を明

確にして戦うことの重要性を指摘。参院選を戦った経験の重みをふまえ、憲法と民主主義を揺るがしている安倍政治を終らせるため、次期総選挙に向けて、野党共闘を大きく前進させていくことの必要性を訴えました。最後に「これからの戦いと憲法論議」として、改憲の危険な動きに触れ、戦後、民主政治は押し付けられたのではなく、回復されたのであって、9条が改正されていたら、ベトナム戦争に兵を送っていたらろうとし、憲法が平和な日本を作ったと力説し、会場からの大きな拍手に包まれました。

その後、野党4党(民進、共産、自由、社民)から、メッセージ、挨拶が寄せられました。最後に小出重義オール埼玉総行動実行委員長から6月4日の1万5000人集会(北浦和公園)を成功させようとの訴えがなされ、大きな拍手で確認されました。



楽しみ七分 活動三分

全日本年金者組合

今回は浦和支部の小浦親二事務局長からお話をお聞きしました。小浦氏は国鉄に長く勤め、国労組合員として奮闘されてきました。一部をご紹介します(聞き手:古澤、阿久津)。

日本でただ一つ年金の専門組織

全日本年金者組合は1989年に設立。全国の都道府県に本部が置かれ、組合員は全国で11万人を超えています。さいたま市には4支部(浦和、大宮、岩槻、与野)あり、浦和支部は470人で区ごと(浦和、緑、桜、南)に活動しています。労

働組合活動をしていた人やサークルや旅行などで知り合って加入する方が多いとのこと。

元気の源はみんなで集まってワイワイ楽しくやること

カラオケや卓球、バスハイク、散歩など同じ趣味で集まるサークルなどみんなの元気が出る行事を旺盛に行っています。

高齢者の生活と健康を守るために

楽しい企画で元気になるとともに、高齢者の生活と権利を守る活動に取り組んできました。組合は年金引き下げを圧縮させたり、国民年金保険料の値上げを止めるなどの成果をあげてきました。厚労省の調査(2012年)では今後充実させるべきと考える社会保障分野は「老後の所得保障(年金)」が41%と最も多く、特に30代から40代の強い要求となっています。

組合は国の責任で全額国庫負担による公的年金「最低保障年金制度」の早期実現をめざし、月1回の駅頭での署名活動に取り組んでいます。また、さいたまでは憲法裁判(年金2.5%削減に反対)をたたかっています。全国から集まる年1回の「年金一揆」(日比谷野音での集会から銀座パレード)にも多くの組合員が参加します。

地域で仲間とともにいきいき人生を

誰でも安心して高齢期をすごそう。「ひとりぼっちじゃない」よと春・秋の拡大月間では街に出て組合加入を呼びかけています。高齢者の命綱である大切な年金を守り、改善しつつ楽しい生活を送る。この願いを実現するため、日々仲間づくりをすすめています。

